

【参考：結核に関する解説】

1 結核とは

結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。結核と診断した医師は、直ちに保健所長へ届け出なければならない疾病（二類感染症）です。

2 肺結核の症状

肺結核の初期は、風邪と似ています。咳、痰、発熱（微熱）の症状が、2週間以上続き、さらにひどくなると、全身倦怠感、血痰、喀血、呼吸困難などの症状が出ます。

3 感染経路

結核菌を排出している患者が、咳やくしゃみをした時、飛散する結核菌を含んだ飛沫を吸い込むことで感染します。

ただし、結核菌を吸い込んでも、多くの場合、体の抵抗力によって体の中に菌が残りません。

4 潜伏期間等

結核菌は、感染しても増殖速度が遅く、IGRA 検査（血液検査）で感染を確認できるようになるまでには、2～3 か月程度かかります。

感染者の 10～20%が発病し、感染後 2 年以内に発病することが多いとされています。

5 治療法

発病し、排菌している場合は、入院になります。入院期間は、平均して 2～3 ヶ月程度です。

排菌していない場合は、通院・服薬治療になります。服薬期間は、基本的には 6 ヶ月間です。

（注）

発病者：結核の症状を呈し、画像検査等により結核の所見が認められた者。ただし、排菌していなければ、他人に感染させることはない。

感染者：無症状で、ツベルクリン反応検査や IGRA 等検査で陽性となった者。体内に結核菌を保有するが、他人に感染させることはない。

6 喀痰塗抹陽性肺結核とは

喀痰塗抹検査で結核菌が陽性（発病し、排菌している場合）であり、**他人に感染させるおそれがある状態**。

（注）

喀痰塗抹検査：喀痰を直接、載せガラスに白金耳などで塗りつけ、乾燥、熱固定して、抗酸性染色（チール・ネールゼン染色や蛍光染色）を施し、顕微鏡下で抗酸菌の存在を探す方法。

【参考：結核の現状】

(1) 結核の罹患率（人口 10 万人あたりの新登録患者数）

	2023 年 罹患率	2023 年全国順位 (罹患率の低い順)	2022 年 罹患率	2022 年全国順位 (罹患率の低い順)
青森県	5.9	未発表	7.5	19 位
岩手県	3.6	1 位	5.1	4 位
宮城県	5.2	4 位	5.3	6 位
秋田県	5.3	未発表	5.6	7 位
山形県	4.4	3 位	4.6	2 位
福島県	5.3	未発表	4.6	2 位
全国	8.1	—	8.2	—

※罹患率が最も高い都道府県：大阪府 13.1（2023 年）、大分県 10.8（2022 年）

喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（再掲）（人口 10 万人あたり）

※他人に感染させるおそれのある状態

	2023 年 喀痰塗抹陽性 肺結核罹患率	2023 年全国順位 (喀痰塗抹陽性肺結 核罹患率の低い順)	2022 年 喀痰塗抹陽性 肺結核罹患率	2022 年全国順位 (喀痰塗抹陽性肺結 核罹患率の低い順)
青森県	2.0	未発表	2.7	25 位
岩手県	1.6	未発表	1.9	4 位
宮城県	1.8	未発表	2.7	11 位
秋田県	2.2	未発表	1.9	4 位
山形県	1.7	未発表	1.8	3 位
福島県	1.8	未発表	1.9	4 位
全国	2.8	—	3.0	—

※喀痰塗抹陽性肺結核罹患率が最も高い都道府県：大阪府・奈良県 4.7（2023 年）大阪府・大分県 4.2（2022 年）

- ・本県の罹患率は全国を下回っているが、東北地方の中では、一番高い状況にある。
- ・また、喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（再掲）をみても、全国よりは下回っているが、東北地方の中では最も高い状況にある。

(2) 新登録患者の年齢構成割合（2023 年、％）

年齢（歳）	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80 以上
青森県	1.4	7.1	4.3	2.9	4.3	8.6	22.9	48.6
全国	1.3	10.3	5.4	4.8	7.5	8.5	19.2	42.9

※青森県では、新登録患者の 7 割が 70 歳以上の高齢者である。

(3) 受診の遅れについて（症状が出てから初診までの期間が 2 ヶ月以上の割合、％）

	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年	2019 年
青森県	42.9	16.0	22.2	32.1	30.4
全国	19.9	19.9	20.8	19.1	20.4